

和みの公園に 風光る季節がやってきた

うららかな春の陽気に誘われて
カートを脱いだ人々が
軽やかな足取りで公園を散策。
桜前線はもうすぐ。



和光市 (わこうし)

東京都(板橋区・練馬区)と境を接する埼玉県和光市は、江戸時代には川越街道の宿場町として栄え、現在は東武東上線はじめ東京メトロ有楽町線、それに東京外郭環状道路など、交通至便な住都市として人口が増え続けていますが、武蔵野の面影を残した豊かな自然もたっぷり。
そんな和光市の懐かしい風景、新しい風景をたどりながら春うららさを満喫しましょう。

今回の登場人物



業平あずま
業平家の長女。母親が経営する小学生向けの英会話教室を手伝う。旅行が趣味。



松原早苗
あずまの短大時代からの友人。海外旅行と料理が趣味。



栗橋友子
あずまの短大時代からの友人。越谷市に暮らす保育士。

あずまです。今日は短大時代からの友人たちと、和光市駅の周辺を散策してきました。ここは「和光樹林公園」です。満開の桜が迎えてくれました。足に優しいジョギングコースも整備され、それからきれいな花時計もありましたよ。(MAPのA)



「樹林公園」に向かう途中にあった「サンアセリア」(市民文化センター)です。大小のホールがあり、コンサートや舞台公演が行われます。このあたりの「ケヤキ並木」は見事でしたよ。(MAPの②)



池袋から東武東上線の準急電車に乗って2つ目、「和光市駅」に到着しました。駅前には童謡詩人・清水かつらが作詞した「靴が鳴る」「緑のそよ風」「叱られて」の歌碑があります。



白子地区の鎮守である「熊野神社」です。創建から約1000年と言われているそうです。「白子の富士山」(富士塚)というものもあり、文化2年(1805年)以来の登山記念碑がありました。(MAPの①)



お花見のおと、「白子コミュニティセンター」へ。この地で暮らした童謡詩人・清水かつらと、和光市出身の児童文学作家で「ゴコロ戦争」などの作品で有名な大石真に関する展示がありました。保育士の友子は興味津々。(MAPの③)

斜面林に守られるかのように建つ熊野神社は、白子宿の氏神様として信仰を集めました。社殿前の籠の口から出ているのは湧き水。大きな富士塚もあります。熊野神社に隣接する神瀧山不動院は、伊賀忍者江戸城出仕の地、また不動産流拳法の発祥の地としても知られています。

この地域には、税務大学校に付随した租税資料館(平日のみ開館)や、日本唯一の自然科学の総合研究所として知られる理化学研究所(4/19に一般公開)もあります。

和光市駅南口から東に向かって歩いていくと、白子川に出ます。ここは江戸時代に川越街道の宿場・白子宿があった場所。現在でも家並みにその名残がどことなく漂っています。また、この辺りは起伏の激しい地形になっており、その高低差が湧き水や豊かな斜面林を生み、湧き水はいまも白子地区の生活用水に利用されているそうです。

とにかく広い緑地です。東部は芝生の広場、中央から西部には落葉樹林が広がり、遊歩道が巡っています。四季折々の自然に親しめますが、春の桜並木は格別。両側から桜の花が空に向かって広がり、ピンクのアーチとなります。

和光市駅南口の広場には、当地出身の童謡詩人・清水かつら作「みどりのそよ風」などの曲の歌碑。この歌を口ずさみながら駅前通りの商店街を南に歩いていきます。オペラの上演もできる大ホールが自慢の市民文化センター「サンアセリア」を横目にケヤキ並木を奥へ進むと、やがて「和光樹林公園」に到着。

旧川越街道白子宿の面影をたどる



ダイニング「カフェ」クロシェット「ドゥボワ」というお店で「洋食」のランチをいただきました。毎週土曜の晩にはサタデーコンサートが、第2・4木曜のティータイムには歌声喫茶が開かれるそうです。(MAPの⑤)



「熊野神社」に隣接する「不動院」は、通称「滝不動」とも呼ばれ、龍の口から湧き水が流れていました。また、「開運洞窟巡り」というものが！ちょっとした洞窟探検気分も味わえました。(MAPの④)



早苗が疲れたというので、ここからはタクシーに乗りました。これは「長照寺の大イチョウ」。樹齢は700年で、樹高は29mもあります。300kgものギンナンがなるというにはビックリ！(MAPの⑥)



江戸時代中期の民家を解体・保存した「新倉ふるさと民家園」(旧富岡家住宅)です。囲炉裏や昔の農機具などに郷愁を覚えました。四季折々の行事も盛んに行われているようです。(MAPの⑦)

300年前の古民家が現代によみがえった

和光市ゆかりの文化人といえば、旧白子村に暮らした童謡詩人・清水かつら。それに、やはり旧白子村生まれで、「風信器」「チョコレート戦争」などの代表作や、ジャック・ロンドンの『野生の呼び声』の翻訳で知られる児童文学作家・大石真です。白子コミュニティセンターにはこの二人の資料展示コーナーがあります。

白子川に沿った遊歩道を下流に向かって歩き、東上線のガードを潜って和光市の北側に出ます。

和光市内には、酒蔵や代官屋敷、長屋門など江戸期の民家が残されていますが、新倉地区には約300年前に建てられた古民家が「新倉ふるさと民家園」として復元され、一般公開されています。建物の見学だけではなく、年間を通じて四季折々の昔の行事や「草履つくり」など体験イベントが催されるのが特長。古民家のかつての暮らしに息づいていた文化を現代に伝えているのです。

長照寺には、推定樹齢700年のイチョウの老樹。新倉の古民家よりも遙か昔から人々の暮らしを見守っています。市内最古の縁起をもつのは、東明禅寺(吹上観音)。裏手には150余りの庚申塚が並んでいます。そのほか、和光市で唯一の獅子舞「さら獅子舞」が毎年秋に奉納される下新倉氷川八幡神社や、豊鑑寺・妙典寺・東林寺など、この地区では多くの田舎ある社寺を巡り歩くことができます。

最後に紹介するスポットは、和光市駅北口の近くにある柿ノ木坂湧水公園。小さな公園の奥に小さな湧水があります。とても小さな流れですが、昔々から武蔵野台地を潤し続ける命の水なのです。

